

こんにちは。

本日は“シナプス”をお開き下さりありがとうございます。
新しい年になりました。変異するコロナウイルス、厳しい寒さとなった冬・・・
そんな幕開けとなりました。
今回は、1月末に開催しました研修会の講演内容を中心にお伝えいたします。
引き続き「高次脳機能障がいって？」の参考にしていただければ幸いです。

令和3年度 第2回「高次脳機能障がいWeb研修会」開催

講演1

高次脳機能障害者に対する神経心理学リハビリテーション
講師 中央大学講師 公認心理師 臨床心理士 山口加代子先生

講演2

高次脳機能障がい者に対する職業リハビリテーションの動向
～宮崎県における就労支援の現状を踏まえて～
講師 独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 宮崎支部
宮崎障害者職業センター 所長 高瀬健一先生

山口先生は、

「高次脳機能障がい者に対するリハビリテーションを神経心理学リハビリテーションという。認知リハビリテーションが認知機能障害を中心に扱うのに対し、神経心理学リハビリテーションは認知機能障害だけでなく感情や人格、身体障害までをその対象として含む場合に用いられる」とご講義、方法論として、①～④をご紹介くださいました。

- ①認知的アプローチ（失われた認知機能の回復と理解を目的に）
- ②代償的アプローチ（残存機能を用いて代償を目的に）
- ③環境調整的アプローチ（損なわれた認知機能の影響の減少を目的に）
- ④心理教育的アプローチ（新たな自分で適応していくことを目的に）

高瀬先生は、

高次脳機能障害の概要について、「後天的な脳損傷による認知機能の障害、症状は幅広く障害は重複することが多い、それに加え、自分の障害を客観的に理解しにくい場合が多い（気づきの問題）」として、職業リハビリテーションにおける障害別の対応方法を具体的にお示しくくださいました。

「気づき」の課題には「脳損傷前の自分と同じ仕事を同じようにできると考える」ことがあるとして、体験を通して気づきを促す、ただ一方で障害を直視することは自尊心の低下につながり配慮のない「突きつけ」は抑うつや意欲低下、信頼関係を壊すことにもなり注意、「〇〇は出来ない」よりも、△△(対策・支援)があれば、〇〇が出来る」という視点で支援する重要性などご講演くださいました。

＜後記＞ 今回も研修会はコロナウイルスの影響によりライブ配信といたしました
が、今やこの研修形式も定着した感があります。ただ、対面式にも対面による受講の魅力はありコロナ禍の終息が待たれます。（高次脳機能障がい支援コーディネーター 黒木和代）